

新規採用・削除医薬品等通知

新規採用医薬品通知

(薬品名)	リベルサス錠 3mg ・ 7mg ・ 14mg	劇	市販直後調査 2021年2月～8月
(英名)	Semaglutide (Genetical Recombination)		
(規格・含有量)	1錠中セマグルチド(遺伝子組換え)3mg・7mg・14mg		
(一般名)	セマグルチド(遺伝子組換え)		
(メーカー名)	ノボ ノルディスク ファーマ株式会社		
【薬価収載日】	2020年11月		
【薬価】	3mg:143.20円 7mg:334.20円 14mg:501.30円		
【薬効コード】	2499		
【薬効分類名】	2型糖尿病治療剤 経口 GLP-1 受容体作動薬		
効能・効果	2型糖尿病		
用法・用量	通常、成人には、セマグルチド(遺伝子組換え)として1日1回7mgを維持用量とし経口投与する。ただし、1日1回3mgから開始し、4週間以上投与した後、1日1回7mgに増量する。なお、患者の状態に応じて適宜増減するが、1日1回7mgを4週間以上投与しても効果不十分な場合には、1日1回14mgに増量することができる。		
禁忌	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡又は前昏睡、1型糖尿病の患者[インスリン製剤による速やかな治療が必須となるので、本剤を投与すべきでない。] 重症感染症、手術等の緊急の場合[インスリン製剤による血糖管理が望まれるので、本剤の投与は適さない。]		
相互作用	低血糖症の発現に注意 糖尿病用薬;ピグアナイド系薬剤、スルホニルウレア剤、速効型インスリン分泌促進剤、 α -グルコシダーゼ阻害剤、チアゾリジン系薬剤、DPP-4阻害剤、SGLT2阻害剤、インスリン製剤等 他剤作用増強 レボチロキシシン製剤		
副作用	重大な副作用 低血糖、急性膵炎 その他 悪心、下痢		

〔薬品名〕	ルムジェブ注 100 単位/mL ・ミリオペン 劇
〔英名〕	Insulin Lispro (Genetical Recombination)
〔規格・含有量〕	1 バイアル; インスリン リスプロ(遺伝子組換え) 1000 単位 1 キット; インスリン リスプロ(遺伝子組換え) 300 単位
〔一般名〕	インスリン リスプロ(遺伝子組換え)
〔メーカー名〕	日本イーライリリー株式会社
〔薬価収載日〕	2020 年 5 月
〔薬価〕	1 バイアル; 2,770 円 1 キット; 1,400 円
〔薬効コード〕	2492
〔薬効分類名〕	抗糖尿病剤
効能・効果	インスリン療法が適応となる糖尿病
用法・用量	通常、成人では 1 回 2~20 単位を毎食事開始時に皮下注射するが、必要な場合は食事開始後の投与とすることもできる。ときに投与回数を増やしたり、持続型インスリン製剤と併用したりすることがある。 投与量は、患者の症状及び検査所見に応じて適宜増減するが、持続型インスリン製剤の投与量を含めた維持量としては通常 1 日 4~100 単位である。(バイアル製剤・キット製剤) 必要に応じ持続皮下注入ポンプを用いて投与する。(バイアル製剤のみ)
禁忌	低血糖症状を呈している患者 インスリンリスプロ又は本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者
相互作用	低血糖症状のおそれ 糖尿病用薬(ビグアナイド系薬剤、スルホニルウレア系薬剤、速効型インスリン分泌促進剤、 α -グルコシダーゼ阻害剤、チアゾリジン系薬剤、DPP-4 阻害薬、GLP-1 受容体作動薬、SGLT2 阻害剤等)、モノアミン酸化酵素(MAO)阻害剤、三環系抗うつ剤(ノルトリプチリン塩酸塩等)、サリチル酸誘導体(アスピリン、エテンザミド)、抗腫瘍剤(シクロホスファミド水和物) β 遮断剤(プロプラノロール塩酸塩、アテノロール、ピンドロール)、クマリン系薬剤(ワルファリンカリウム)、クロラムフェニコール、ベザフィブラート、サルファ剤、シベンゾリンコハク酸塩、ジソピラミド、ピルメノール塩酸塩水和物 高血糖症状のおそれ チアジド系利尿剤(トリクロルメチアジド)、副腎皮質ステロイド(プレドニゾン、トリアムシノロン)、ACTH(テトラコサクチド酢酸塩)、アドレナリン、グルカゴン、甲状腺ホルモン(レボチロキシシンナトリウム水和物、乾燥甲状腺)、成長ホルモン(ソマトロピン)、卵胞ホルモン(エチニルエストラジオール、結合型エストロゲン)、経口避妊薬、ニコチン酸、濃グリセリン、イソニアジド、ダナゾール、フェニトイン 低血糖症状、又は高血糖症状のおそれ 蛋白同化ステロイド(メスタノロン)、ソマトスタチンアナログ製剤(オクトレオチド酢酸塩、ランレオチド酢酸塩)
副作用	重大な副作用 低血糖、アナフィラキシーショック、血管神経性浮腫

(薬品名)	エムガルティ皮下注 120mg オートインジェクター	生物 市販直後調査 2021 年 4 月～10 月
(英名)	Galcanezumab(Genetical Recombination)	
(規格・含有量)	1 シリンジ 1 mL 中 ガルカネズマブ(遺伝子組換え)120 mg	
(一般名)	ガルカネズマブ(遺伝子組換え)	
(メーカー名)	日本イーライリリー株式会社	
【薬価収載日】	2021 年 4 月	
【薬価】	1 キット 45,165 円	
【薬効コード】	1190	
【薬効分類名】	ヒト化抗 CGRP モノクローナル抗体製剤	
効能・効果	片頭痛発作の発症抑制	
用法・用量	通常、成人にはガルカネズマブ(遺伝子組換え)として初回に 240mg を皮下投与し、以降は 1 ヶ月間隔で 120mg を皮下投与する。	
禁忌	本剤の成分に対し重篤な過敏症の既往歴を有する患者	
相互作用	記載なし	
副作用	重大な副作用 重篤な過敏症反応 その他 注射部位疼痛、注射部位反応(紅斑、そう痒感、内出血、腫脹等)	

削除医薬品通知

ヒューマリン 3/7 注ミリオペン 300 単位/3mL	6/1 削除
------------------------------	--------

後発品医薬品採用通知

変更後	変更前
<ul style="list-style-type: none"> ● <u>6月1日より</u> エパルレスタット錠 50mg「武田テバ」 	<ul style="list-style-type: none"> ● キネダック錠 50mg

供給不足による医薬品変更通知

変更後	変更前
<ul style="list-style-type: none"> ● <u>6月1日より</u> グリメピリド錠 0.5mg「三和」 ● <u>在庫消尽後</u> トリメブチンマレイン酸塩錠 100mg「トーワ」 ベニジピン塩酸塩錠 4mg「YD」 	<ul style="list-style-type: none"> ● グリメピリド錠 0.5mg「日医工」 ● トリメブチンマレイン酸塩錠 100mg「日医工」 ベニジピン塩酸塩錠 4mg「サワイ」

剤形変更医薬品通知

変更後	変更前
<ul style="list-style-type: none"> ● <u>6月1日より</u> パーサビブ静注透析用シリンジ 5mg パーサビブ静注透析用シリンジ 2.5mg 	<p>パーサビブ静注透析用 5mg</p>

適応追加通知

<p>アロキシ点滴静注 バッグ 0.75mg</p>	<p>【効能・効果】 抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)投与に伴う消化器症状(悪心、嘔吐)(遅発期を含む)</p> <p>【用法・用量】 通常、パロノセトロンとして0.75mgを1日1回静注又は点滴静注する。 ただし、18歳以下の患者には、通常、パロノセトロンとして20μg/kgを1日1回静注又は点滴静注することとし、投与量の上限は1.5mgとする。</p>
<p>ヤーボイ点滴静注液 50mg</p>	<p>【効能・効果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.根治切除不能な悪性黒色腫 2.根治切除不能又は転移性の腎細胞癌 3.がん化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の高頻度マイクロサテライト不安定性(MSI-High)を有する結腸・直腸癌 4.切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌 5.切除不能な進行・再発の悪性胸膜中皮腫 <p>【用法・用量】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.~4. 省略。 5.ニボルマブ(遺伝子組換え)との併用において、通常、成人にはイピリムマブ(遺伝子組換え)として1回1mg/kg(体重)を6週間間隔で点滴静注する。

オブジーボ点滴静注	【効能・効果】
240mg	1. 悪性黒色腫
120mg	2. 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌
20mg	3. 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌
	4. 再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫
	5. 再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌
	6. がん化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の胃癌
	7. がん化学療法後に増悪した 切除不能な進行・再発の悪性胸膜中皮腫
	8. がん化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の高頻度マイクロサテライト不安定性(MSI-High)を有する結腸・直腸癌
	9. がん化学療法後に増悪した根治切除不能な進行・再発の食道癌
	【用法・用量】
	1. ～ 6. 8. 9.省略。
	7. 通常、成人にはニボルマブ(遺伝子組換え)として、1回 240mg を 2 週間間隔又は1回 480mg を 4 週間間隔で点滴静注する。 イピリムマブ(遺伝子組換え)と併用する場合は、通常、成人にはニボルマブ(遺伝子組換え)として、1回 240mg を 2 週間間隔又は1回 360mg を 3 週間間隔で点滴静注する。